

—第16回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2021年6月26日(土) 19:00~20:45

開催方法 オンライン (Zoom: <https://us02web.zoom.us/j/81220436698>)

コーディネーター: 井上 透、林 知代

プログラム

※発表時間は10分、質疑応答は5分です。

1. COVID-19 状況下での普及教育活動へのデジタルアーカイブ活用
大阪市立自然史博物館での実践例から
(19:00~19:15)
佐久間 大輔 (大阪市立自然史博物館)
2. 博物館等における写真デジタルデータ保管の課題
(19:15~19:30)
熊崎 康文 (岐阜女子大学)
3. 学校図書館におけるデジタルアーカイブの実践的研究
(19:30~19:45)
青木 実花 (長野県長野商業高等学校 図書館)
4. 信濃国川路興行資料のデジタルアーカイブについて
—五代目市川海老蔵の芝居台帳を素材として—
(19:45~20:00)
木村 涼 (岐阜女子大学)
5. 分野横断型ポータルサイトの提供データ増加促進策
(20:00~20:15)
井上 透 (岐阜女子大学)
6. 講義利用を想定したデジタル画像データ収集
(20:15~20:30)
皆川 雅章 (札幌学院大学)
7. 「沖縄おうらい」のフィードバック蓄積について
(20:30~20:45)
加藤 真由美 (岐阜女子大学 沖縄サテライト校)

<p>1. COVID-19 状況下での普及教育活動へのデジタルアーカイブ活用 大阪市立自然史博物館での実践例から</p> <p style="text-align: right;">(19:00~19:15) 佐久間 大輔 (大阪市立自然史博物館) 北村 美香 (大阪市立自然史博物館)</p> <p>COVID-19 状況下で、博物館活動もネット上での活動が大幅に増加し、デジタルアーカイブの活用も、各所で主に研究成果や所蔵品の公開を中心に進んでいる。ここでは、教育普及活動へのデジタルアーカイブの活用として、大阪市立自然史博物館の「おうちミュージアム」での活動を紹介します。同時に、これらの活動が旧来の教育普及活動とは異なる利用者とのコミュニケーションにつながっていることを示す。</p>
<p>2. 博物館等における写真デジタルデータ保管の課題</p> <p style="text-align: right;">(19:15~19:30) 熊崎 康文 (岐阜女子大学)</p> <p>岐阜県博物館協会ひと部会(研修部会)では、2020年、協会員に対し、「写真デジタルデータの保管」をテーマにアンケートを実施、各館の課題を集約、協議した。協会から助言の要請を受けた岐阜女子大学では、その課題へのコメントを回答した。</p> <p>そこからは、多くの博物館等で写真デジタルデータの恒久的な保管に対し、様々な課題に取り組もうとしていることがうかがえた。今回、大学からの回答を補足する形でその課題への対応を考察した。</p>
<p>3. 学校図書館におけるデジタルアーカイブの実践的研究</p> <p style="text-align: right;">(19:30~19:45) 青木 実花 (長野県長野商業高等学校 図書館)</p> <p>学校図書館の情報化を進める事は「学校教育の中核」としての役割を果たすために急務である。コロナ禍で図書館における対面サービスが制限される中、学校現場で推進されている「GIGA スクール構想」に合わせて Google Classroom 図書館を整備した。また高校生の図書館利活用拡充に Google Classroom 図書館を用いる過程で、校内資料のデジタルアーカイブを行った。その実践内容と今後の課題について考察する。</p>
<p>4. 信濃国川路興行資料のデジタルアーカイブについて —五代目市川海老蔵の芝居台帳を素材として—</p> <p style="text-align: right;">(19:45~20:00) 木村 涼 (岐阜女子大学)</p> <p>天保12年(1841)8月、信州川路(現長野県飯田市)において、歌舞伎役者、五代目市川海老蔵(=七代目市川團十郎<1791~1859>)は、総勢72人の一座を組み歌舞伎を上演している。この時、海老蔵は、川路村の庄屋である関島記一の家逗留した。その時の資料の大部分が、関島家より2011年に早稲田大学坪内博士記念演劇博物館に寄贈・寄託された。すでにこれらの資料の概要やデジタルアーカイブの現状については若干紹介している。本報告では、特に海老蔵の芝居台帳に焦点をあて、そのデジタル化の現状を改めて把握し、コミュニティ(地域)アーカイブの進捗状況と課題について検討していく。</p>
<p>5. 分野横断型ポータルサイトの提供データ増加促進策</p> <p style="text-align: right;">(20:00~20:15) 井上 透 (岐阜女子大学)</p> <p>小規模アーカイブがジャパンサーチ等大規模分野横断型ポータルサイトへの参加を図るためには、分野別の中規模ポータルサイトへメタデータ提供することが求められている。小規模アーカイブに蓄積されたメタデータを、API公開することによって、ジャパンサーチや中規模アーカイブが定期的にメタデータを収集する方法が行われている。しかし、サイエンスミュージアムネットでは、国立科学博物館が開発したマッピングソフトにより、各博物館はメタデータを整形し提供しており、ポータルサイトのデータ増加促進策として検討すべきではなからうか。</p>
<p>6. 講義利用を想定したデジタル画像データ収集</p> <p style="text-align: right;">(20:15~20:30) 皆川 雅章 (札幌学院大学)</p> <p>報告者はデジタルアーカイブ化を目的として撮影を行ってきた国内外のデジタル画像データに解説を付して、2020年度から「今週の画像」としてデジタルアーカイブ関連科目の履修者に毎回の講義で紹介している。これは、COVID-19 影響下でのオンライン授業向けに始めた取り組みであるが、今後も継続し、デジタルアーカイブに対する履修者の関心や学習意欲に与える影響を検証していきたい。そのためには、さらなるデジタルデータの収集・蓄積が必要であり、現有デジタルデータをもとに、今後の収集の方向性を探る。</p>
<p>7. 「沖縄おうらい」のフィードバック蓄積について</p> <p style="text-align: right;">(20:30~20:45) 加藤 真由美 (岐阜女子大学 沖縄サテライト校)</p> <p>沖縄への修学旅行・観光目的に作成した「沖縄おうらい」は利用いただいた高校にアンケートを任意でお願いしている。このアンケートによりフィードバックされた情報は活用者の実践に基づく有用な情報であり、開発機関はこれらを整理・活用しよりよいコンテンツへの改編につなげるだけでなく、情報として蓄積していく必要がある。今回、2018~2020年の3年間分のフィードバックを整理し、新しい形態の「沖縄おうらい」における資料提供や情報発信について考察した。</p>